

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成20年3月27日(2008.3.27)

【公開番号】特開2006-241197(P2006-241197A)

【公開日】平成18年9月14日(2006.9.14)

【年通号数】公開・登録公報2006-036

【出願番号】特願2005-55129(P2005-55129)

【国際特許分類】

C 0 8 J 5/18 (2006.01)

C 0 8 F 220/10 (2006.01)

C 0 8 K 5/00 (2006.01)

C 0 8 L 33/04 (2006.01)

G 0 2 B 5/30 (2006.01)

C 0 8 L 21/00 (2006.01)

【F I】

C 0 8 J 5/18 C E Y

C 0 8 F 220/10

C 0 8 K 5/00

C 0 8 L 33/04

G 0 2 B 5/30

C 0 8 L 33/04

C 0 8 L 21:00

【手続補正書】

【提出日】平成20年2月7日(2008.2.7)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

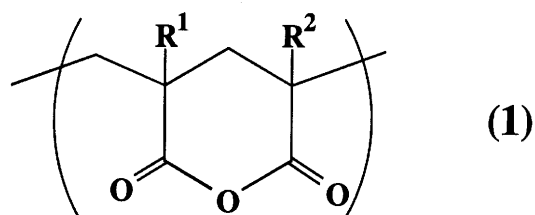
【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ガラス転移温度が 1 2 0 以上のアクリル系熱可塑性重合体 (A) であって、(i) 下記一般式 (1) で表されるグルタル酸無水物含有単位を含有する共重合体 1 0 0 重量部に対して、下記一般式 (2) で表される 2 つ以上の芳香環を含有する、分子量が 1 0 0 0 以下の低分子量化合物 (B) を 0 . 1 ~ 2 0 重量部を含有してなる樹脂組成物で構成され、かつ複屈折率が $6 . 0 \times 10^{-4}$ 以上であることを特徴とするフィルム。

【化 1】



(ただし、 R^1 、 R^2 は、同一または相異なる水素原子または炭素数 1 ~ 5 のアルキル基を表す)

【化 2】



(上記式中、 Ar^1 、 Ar^2 は同一または相異なるフェニル基あるいは炭素数1～10の炭化水素基、アミノ基、水酸基、カルボキシ基で置換されたフェニル基を表す。また、 X は直接結合、 $-\text{O}-$ 、 $-\text{S}-$ 、 $-\text{SO}_2-$ 、 $-\text{C}(\text{CH}_3)_2-$ 、 $-\text{CH}_2-$ 、 $-\text{CHPh}-$ 、 $-\text{CH}=\text{CH}-$ 、 $-\text{C}=\text{C}-$ 、 $-\text{N}=\text{N}-$ を表し、 Ph はフェニル基を表す。)

【請求項 2】

ガラス転移温度が120以上のアクリル系熱可塑性重合体(A)が、(i)上記一般式(1)で表されるグルタル酸無水物含有単位25～50重量%および(ii)不飽和カルボン酸アルキルエステル単位50～75重量%、(iii)不飽和カルボン酸単位を10重量%以下を有する共重合体である請求項1記載のフィルム。

【請求項 3】

2つ以上の芳香環を含有する、分子量が1000以下の低分子化合物(B)が、スチルベンである請求項1または2記載のフィルム。

【請求項 4】

樹脂組成物が、前記(A)アクリル系熱可塑性重合体100重量部に対して、(C)ゴム質含有重合体を1～100重量部をさらに含有してなることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載のフィルム。

【請求項 5】

ゴム質含有重合体(C)が内部に1層以上のゴム質層を有する多層構造重合体(C-1)である請求項4記載のフィルム。

【請求項 6】

(C-1)多層構造重合体が、最外殻層を構成する重合体に上記一般式(1)で表されるグルタル酸無水物含有単位を含有し、かつ、内部のゴム質層を構成する重合体がアクリル酸アルキルエステル単位、および、置換または無置換のスチレン単位を含有する請求項5記載のフィルム。

【請求項 7】

光学用フィルムである請求項1～6のいずれかに記載のフィルム。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

すなわち本発明は、

(1)ガラス転移温度が120以上のアクリル系熱可塑性重合体(A)であって、(i)下記一般式(1)で表されるグルタル酸無水物含有単位を含有する共重合体100重量部に対して、下記一般式(2)で表される2つの芳香族環を含有する、分子量が1000以下の低分子化合物(B)を0.1～20重量部を含有してなる樹脂組成物で構成され、かつ複屈折率が 6.0×10^{-4} 以上であることを特徴とするフィルム、

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

(ただし、 R^1 、 R^2 は、同一または相異なる水素原子または炭素数1～5のアルキル基を表す)

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0010

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0010】

(上記式中、 Ar^1 、 Ar^2 は同一または相異なるフェニル基あるいは炭素数1～10の炭化水素基、アミノ基、水酸基、カルボキシ基で置換されたフェニル基を表す。また、 X は直接結合、 $-O-$ 、 $-S-$ 、 $-SO_2-$ 、 $-C(CH_3)_2-$ 、 $-CH_2-$ 、 $-CHPh-$ 、 $-CH=CH-$ 、 $-C\equiv C-$ 、 $-N=N-$ を表し、 Ph はフェニル基を表す。)

〔2〕ガラス転移温度が120 以上のアクリル系熱可塑性重合体(A)が、(i)上記一般式(1)で表されるグルタル酸無水物含有単位25～50重量%および(ii)不飽和カルボン酸アルキルエステル単位50～75重量%、(iii)不飽和カルボン酸単位を10重量%以下を有する共重合体である上記〔1〕記載のフィルム、

〔3〕2つ以上の芳香環を含有する、分子量が1000以下の低分子化合物(B)が、スチルベンである上記〔1〕または〔2〕記載のフィルム、

〔4〕樹脂組成物が、前記(A)アクリル系熱可塑性重合体100重量部に対して、(C)ゴム質含有重合体を1～100重量部をさらに配合してなることを特徴とする上記〔1〕～〔3〕のいずれかに記載のフィルム、

〔5〕ゴム質含有重合体(C)が内部に1層以上のゴム質層を有する多層構造重合体(C-1)である上記〔4〕記載のフィルム、

〔6〕(C-1)多層構造重合体が、最外殻層を構成する重合体に上記一般式(1)で表されるグルタル酸無水物含有単位を含有し、かつ、内部のゴム質層を構成する重合体がアクリル酸アルキルエステル単位、および、置換または無置換のスチレン単位を含有する上記〔5〕記載のフィルム、

〔7〕光学用フィルムである上記〔1〕～〔6〕のいずれかに記載のフィルムである。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0014

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0014】

尚、ここで言うガラス転移温度とは、示差走査熱量計(Perkin Elmer社製DSC-7型)を用いて昇温速度20 /分で測定したガラス転移温度である。

上記のガラス転移温度が120 以上のアクリル系熱可塑性重合体(A)は、その分子主鎖中に環状構造単位を含有するアクリル系共重合体であり、環状構造単位としては、下記一般式(1)で表されるグルタル酸無水物含有単位を含有するアクリル系熱可塑性重合体を使用することができる。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0045

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0045】

本発明においては、上記の(A)アクリル系熱可塑性重合体に、(B)2つ以上の芳香環を含有する、分子量が1000以下の低分子化合物を含有せしめることにより、(A)アクリル系熱可塑性重合体の優れた特性を大きく損なうことなく、優れた位相差機能を付与することができる。